

Well-being - Program of workshop

How to get way for new future.

October.29.2022. 23-FUMI

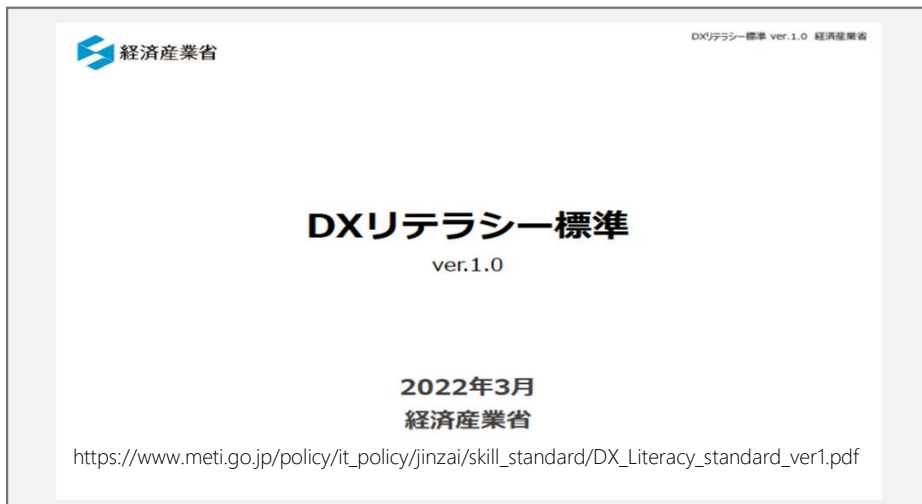
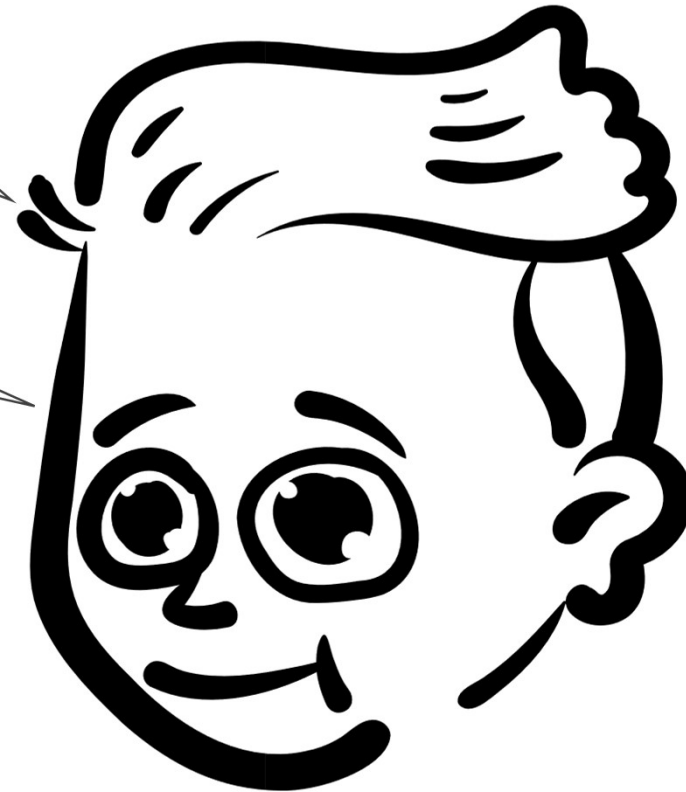


私たちはDXリテラシーの時代を迎える中で

**経済産業省『DXリテラシー標準Ver.1.0』38頁**

「仮説をもってデータを読むことの大切さ」などが  
重要をされてきているね。

データをよみ説明する力、データを扱う力、データによって判断する力、  
データ思考の涵養（かんよう）はさらに需要とされるテーマだね。



**経済産業省『DXリテラシー標準Ver.1.0』2022@ データから見る**

## HOW CHOSE



### 第2回Well-beingに関する関係府省庁連絡会議（2022年6月21日）

#### 10 文科省

基本計画等の名称 - 文化芸術推進基本計画

直近の策定時期 - 2018.3 5 か年

KPI等の調査周期 - 5 年等

#### Well-beingに関連するKPI・参考指標等の例

##### < 現状 >

現行の第1期計画（2018～2022年度）において、以下の指標を設定。

【主観指標】 Well-beingに関連するKPI・参考指標等の例

国民の誇りとして「文化・芸術」が挙げられている割合、日本の芸術について「非常に良い」「やや良い」と回答する割合、地域の文化的環境の満足度 等

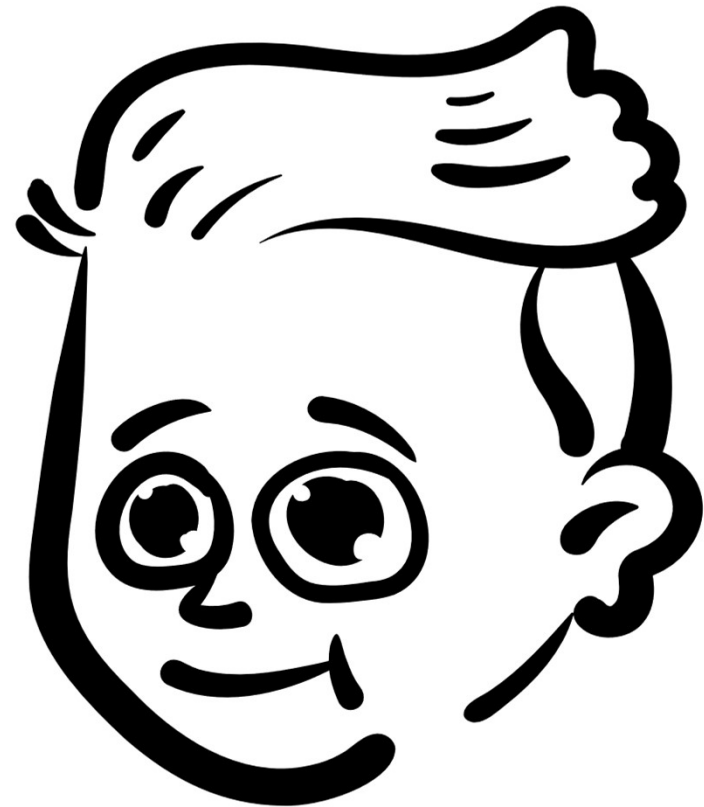
【客観指標】

鑑賞への参加割合、鑑賞以外の文化芸術活動への参加割合、子供・高齢者・障害者の文化芸術活動の参加割合 等

##### < 今後 >

今年度実施している中間評価を踏まえ、2022度に行う計画の見直しにおいて、Well-beingに関する指標についても更に検討。

<https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/action/20220621/agenda.html>



MORI  
ART  
MUSEUM



心身ともに健康である「ウェルビーイング」とは何か、を現代アートに込められた多様な視点を通し - 自然と人間、個人と社会、家族、繰り返される日常、精神世界、生と死など、生や実存に結びつく主題の作品が「よく生きる」ことへの考察を促す。

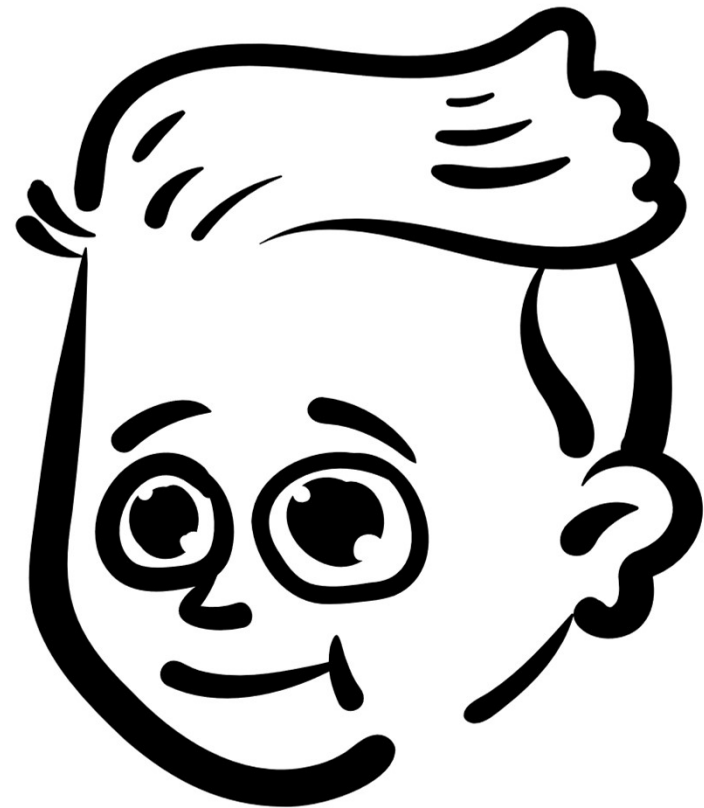
### 地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング

五感を研ぎ澄まし、想像力を働かせて、リアルな空間でアートと出会おう

2022.6.29 (WEN) ~ 11.6 (SUN) 2022

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/earth/index.html>

造形作品群を通して、個々の選択を促しWell - being思考する場の提供とされている。23



THE NATIONAL MUSEUM OF  
MODAN ART,  
TOKYO



具象表現・抽象表現を行き来しながら、人が物を見て認識する原理事態創作に取りくんだ作家。  
ホロコーストなどの歴史や画家自身や家族の記憶から生み出した作品群。

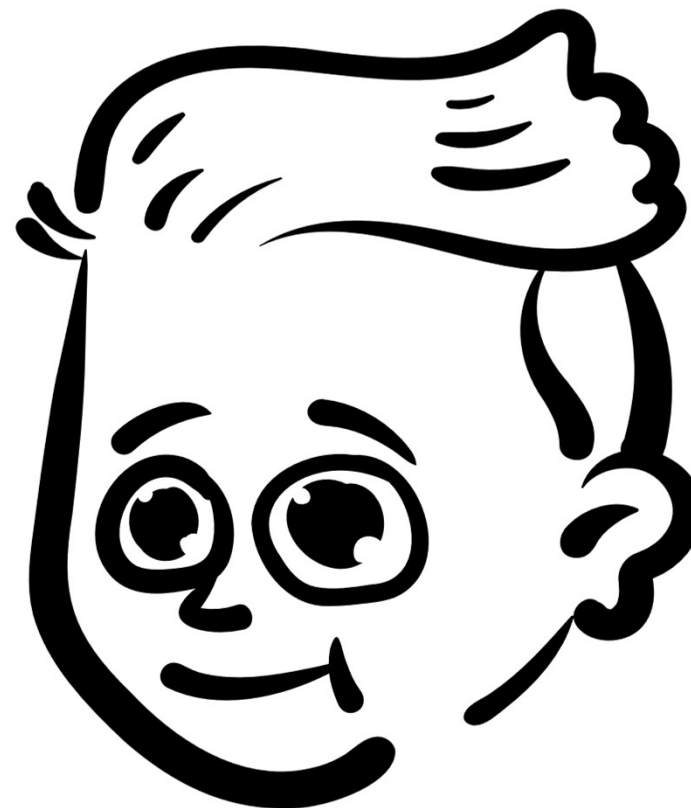
### Gerhard Richter ゲルハルト・リヒター展

生誕90年、画業60年。待望の古典

2022.6.7 (TUE) ~ 10.2 (SUN) .2022

<https://richter.exhibit.jp>

ホロコーストに見る人類の負の歴史イメージなどからなる作品は、  
Well-beingの真逆に見る反面教師と掲示されるのではないか。23



PROJECT TO SUPPORT  
EMERGING MEDIA ARTS  
CREATORS



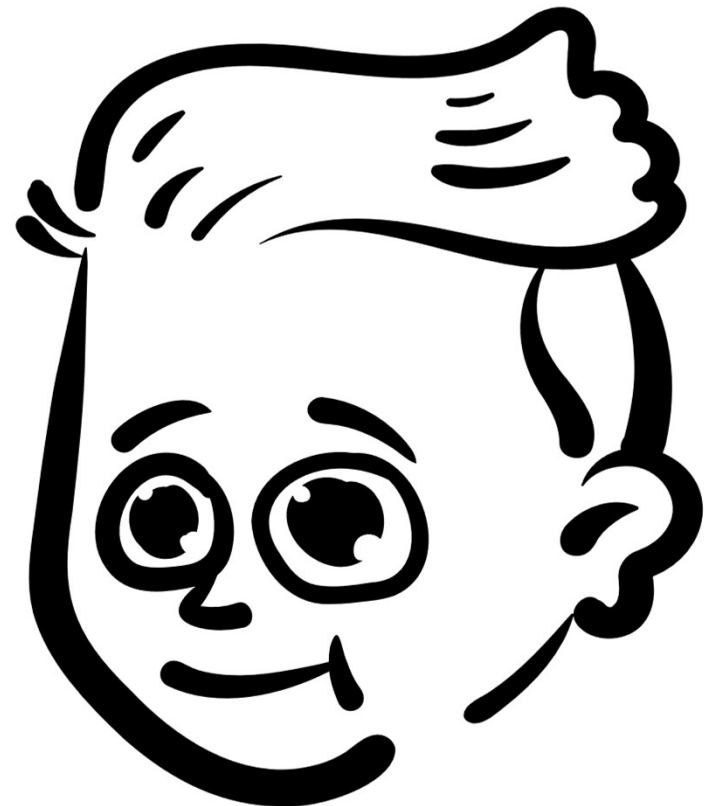
風景やゲームの要素を楽しみながらエクササイズをすることができる。現行のフィットネス系ゲームとは異なる、単身者や高齢者も楽しめるコンテンツ。

文化庁第24回エンターテインメント部門U-18賞

森谷 安寿『Flight Fit VR』2022展覧会

<https://youtu.be/VRbS-CV-v7M>

障害のある方や高齢者にも開かれたスポーツ性で、スコア競技と異なる無限ゲームとし仮想空間をPlayするWell-beingが視点されている。23

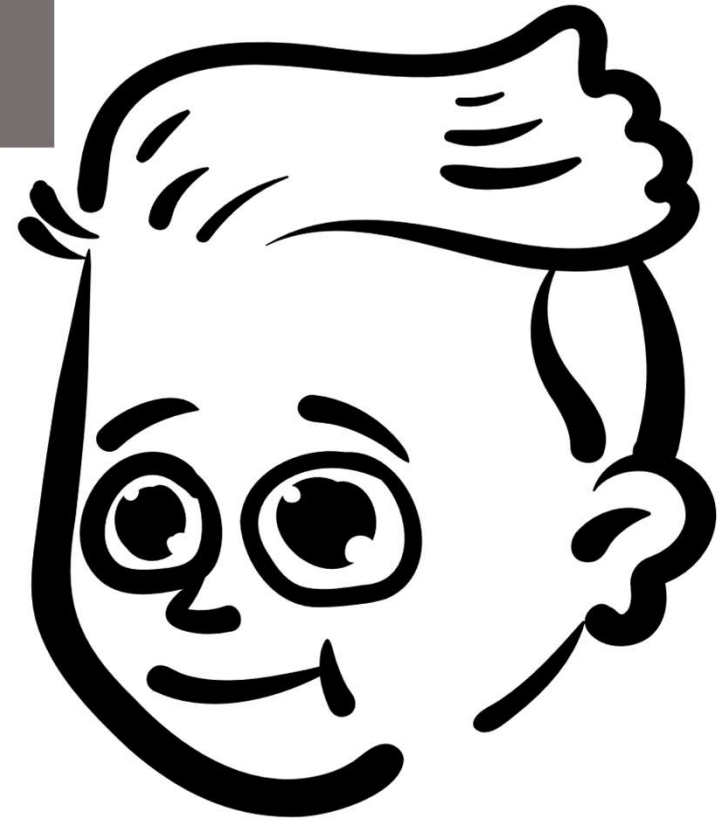


大島周、黒田桃圭、篠井奈美、高野志織 『ワークショップ企画』

南宰 『現代に生きる伝統』

今回の活動で**それぞれ**が自ら選択し  
誰かの強制や強要を手放し  
文化や芸術を「オープン・ユーザー主導・参加型」の中で  
**Well-being** みずから掴む行為とする。

行為となる**妥当性**をリサーチするコト  
調査を基に文化・芸術を作り上げるコト  
今回の実習がそれぞれのWell-beingを掴む  
**ヒント**となるようよう願っている。

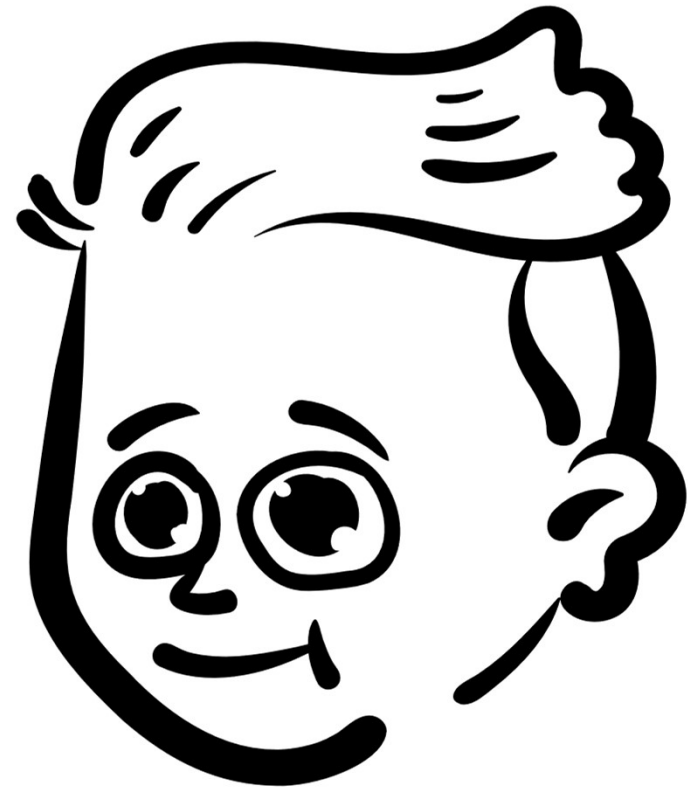




LOOK  
CAREFULLY  
AND  
SEE WHAT ?



文化・芸術を  
私たちの活動で  
みずから**生み出して**いくんだ



LOOK CAREFULLY AND SEE WHAT

私たちの「今」が次の文化・芸術に

Already in your hands

リサーチ

<https://vimeo.com/759421140/ccf156425c>

@黒田桃圭

書道フェスタに参加しようと思ったきっかけは、書道の魅力を1人でも多くの人に伝えていきたいと考えたからです。昨年も書道フェスタに参加し、普段経験のできない大きな筆で文字を書く活動や、体を動かして文字を描いていく体験をして書道には無限可能性が秘められていると感じました。今回は、書道×ハロウィンでみなさんが書道に興味を持ったり魅力を感じたりするきっかけになれるよう精一杯頑張ります！

@篠井奈美

私は、これまで書道というと学校で行う授業や書初めのイメージが強くありました。しかし、昨年このイベントに参加し、体全体を使って行う書道や様々な筆で書く書道、哲学から見た書道などこれまで知らなかった書道を体験し、書道の魅力を感じました。そして、今年度は自分たちで企画案を作成し、教育の面から書道(文字)について考えました。子どもたちが遊びを通して、文字やアートと触れ合える活動を企画する中で、また違う書道(文字)のあり方を考えることができたと感じています。今後は、このような様々な書道のあり方、そこにある魅力をたくさんの人に伝えられるような活動にも是非参加していきたいです。

@大島周

かなざわコースプロジェクトの大島周です。私は今まで書道パフォーマンスを見て書道に憧れていましたが、同時にハードルが高いイメージも持っていました。しかし、このイベントは年齢や書道経験歴に関係なく誰もが楽しむことができます。今まで書道パフォーマンスを見ることしかできなかった方も思いっきり楽しんで書いてみてください！たくさんの方に書道に興味を持っていただけると嬉しいです！

メンバーそれぞれの活動から『Well-being』2022 @ 23

@高野志織

こんにちは。「かなざわユースプロジェクト」の高野志織です。私は現在大学生で教育について勉強しています。そのため、今回の書道フェスタでは教育の観点から子供向けの企画を提案しました。企画書の制作ははじめての経験だったので、最初は難しかったです。しかし他のメンバーと協力して仕事をすることで、企画をよりよいものにしていくことができました。今まで書道に対してあまり関心がありませんでしたが、この企画を通して書道についての知識が増えました。皆さんもこのイベントをきっかけに、是非書道の魅力に触れてみてください！

@南宰

一般的な伝統工芸のイメージはどんなものだろうか？「高い。渋い。おじいちゃんの家にある。」確かに現状はそのような場合が多いかもしれない。僕は、伝統工芸がイヤホンなど新しい用途、モダンなデザインなど新しいカタチで投げかけられていることをニュースで知って、伝統工芸について以前からもっと詳しく調べたいとおもっていた。この機会に調べることができて、伝統工芸を外側から知るだけでなく、いろいろな観点から学ぶことができた。また僕は、自分のビジネスを立ち上げたいと思っているのだが、伝統工芸のマーケティングや新しい売り方を考える事は、ビジネスにも繋がる。ある経営者の方の言葉に「伝わらなければ、存在しないのと同じ」というものがあった。素晴らしいものを作るだけではだめだ。お客さんの手にとってもらい、作り手の思いが伝わって初めて価値があるのだ。これは伝統工芸にも言えることだと思う。多くの人に伝統工芸を知ってもらいたいと思う人が増えていけば、工芸品が繋ぐ可能性は、今より広がっていくだろう。

@善家水郷 { 長土塀青少年交流センター \_ 金沢市 }

「かなざわユースプロジェクト」では、青少年の地域活動への参画を通して、次世代を担うリーダー育成と地域活性化を目指しており、市内の高校生~社会人が現在活動中です。昨年に引き続きコラボ申込をいただき、大変嬉しく思います。今年は企画から参加をさせていただきましたが、ひとつのブースをまかせていただき、メンバーが考える書道について、個人やグループで発表するという企画となりました。企画の段階で、綿密な打合せおよび丁寧に指導いただきメンバーたちも大きくスキルアップが出来たものと思います。このイベントを通して来場者の皆様が魅力的な書道の世界に触れる手助けを青少年の立場からできたらと思います。

@23

いま私たちは「臨書」のなかからの学びを理解できているのだろうか。造形技術獲得から思考的数学的感覚を身体理解に浸透させる。そこへの到達をどこまで書道家たちは伝えられているのだろうか。私は漢字の「一」を書でかく時のにある「まっすぐ」、「平均値」のとらえかた「量的」への結びつきを臨書鑑賞指導のなかで「論点」とする必要から書の造形感覚を言及したい。それは、我々書道家には身体においてまさにアプリケーションと蓄積されている「量的気づき」についてだ。DXが重要視される昨今データサイエンス・統計の涵養が望まれる中、書の線にある量的均等と圧力にある「量的線の見つけ方」につながりと共有したい。統計において {平均値とは、データの値を足し合わせ、データの個数で割った値、データの中心で同じ重さ「釣り合う」位置にくる} 身体感覚へのきずきに紐づいているようだ。書道は臨書のなかで「作品空間から」見えざる線の「均等」が臨書理解の先にはつながっている。まさに私たちの身体へ臨書が作り上げる感覚領域だ。書家が長い時間をかけて造形学習を重ねている価値といえるだろう。我々書道家の劣化は「臨書の無い学び」に他ならない。歴史にある書家同様に私も同意するのは、この臨書の技術習得のなかから見えてくるためといえる。ここも指導において見えてきたことだ。今回のワークショップのテーマであるWell-beingを考える中で、「自分の中のウェルビーイングを実感するための方法論を作るところからはじめたほうがよい（※）」が思い出される。古典にとってのWell-beingを考える中で、先で上げた臨書の身体感覚要素は、DXにおける基礎への重なりを共有することが、今すでに書にある「見せ方」を改めて提示することで古典が現代に生ける価値と、現代社会の中で書家の「暗黙知」を言語化し伝承する必要性と考えている。次の社会がもめているもの「造形されたものから何をみつけられるか」、現代に生きる私たちに必要とされているのは臨書の基礎にほかならないと考えている。

引用箇所

※監修・編著 渡邊淳司、ドミニク・チェン 編著 安藤英由樹、坂倉杏介、村田藍子『わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために—その思想、実践、技術』2022年3月（BNN）,293頁

23



<https://www.232323.org>